

## 大人自らが襟を正そつ

私自身の経験を語ると、この一年の間で、自転車事故に遭ったのが一件、ヒヤリハット体験に至っては、数十件にも上る。一件の自転車事故とは、見通しの悪い路地から急に飛び出してきた自転車と自分の乗る自転車とが、よける暇もなくはげしくぶつかってしまったものだった。幸いにも、お互いに大事故になっていたかもしないと思つて今さらながらゾッとする。かたや、ヒヤリハット体験に関しては、もはや日常茶飯事になってしまつており、危険といつ認識する薄れてくることに私自身怖い気がある。

自転車という「安易」で「簡便」な乗り物は、非常に希薄にさせる。したがつて、「この通りは良いだろー」「多分大丈夫だろー」と、つい高をくくつてしまいがちだが、高校生の自転車による加害事故が後を絶たない今日、けつして他人事ではすまされない。

雨の日の傘差し運転が道路交通法改正後も一

向に改善されない点も非常に気にかかる。高校生の手本となるべき大人でもが、堂々としかも大勢が傘差し運転をしているのを田の間たりにすると暗澹たる気持ちになつてしまつ。まさに、大人自らが襟を正すべきではないだろーか。車のハンドルのみならず自転車のハンドルも、しっかりとルールを守り、時間と心にゆとりをもつて握る必要があると、雨合羽を羽織りながら強く感じた。

車のハンドルのみならず自転車のハンドルも、しっかりとルールを守り、時間と心にゆとりをもつて握る必要があると、雨合羽を羽織りながら強く感じた。

## 警察を動かした危険マップづくり

～県立茅ヶ崎高校の取組み～

タイミングを計測したり、人と自転車の横断状況などを記録していくました。

学校、地域はけつして少なくありません。危険な場所での注意を促すとともに危険な要素を改善するために活用することができますが、現在その多くは作ることのみで終わつてしまふ。ここではマップづくりが結果として行政機関を動かした例を紹介します。

県立茅ヶ崎高校は、一昨年、鎌湘地区交通安全全高校生大会の企画の一つとして危険マップづくりに取り組みました。

茅ヶ崎高校は交通量のはげしい国道1号線沿いに立ち、学校正門につながる横断歩道も危険

な地点の一つでした。そこは、道路幅に比べ、歩行者用青信号の間隔が短く、横断歩道の幅もたいへん狭いものでした。そのため、生徒が集中する通学時間帯には多くの人がなかなか渡りきれない状況にありました。この現状をふまえ、生徒と教員が協同で調査を始め、信号の

発表にとどめず、警察などの行政機関に対し、調査したデータをもとに直接、危険性を説明し、状況の改善を求めていたのです。

その過程はけつして容易なものではありませんでした。しかし、一年ほど経つ現在では、青信号の間隔が延長され、横断歩道が拡幅されました。生徒と教員の熱心な取り組みが功を奏したのです。行動することの大切さを示している事例といえます。

### 死傷者数、一千人を下回る

神奈川県高等学校

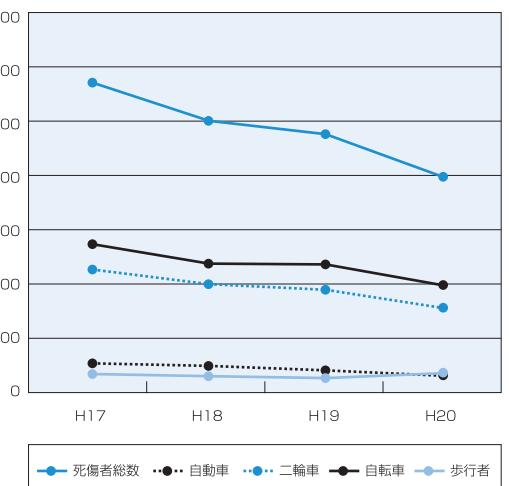
# 交通安全教育資料

第41号（平成21年3月号）

## 特集

### わかっているけれど…… ～ルールを守らない高校生～

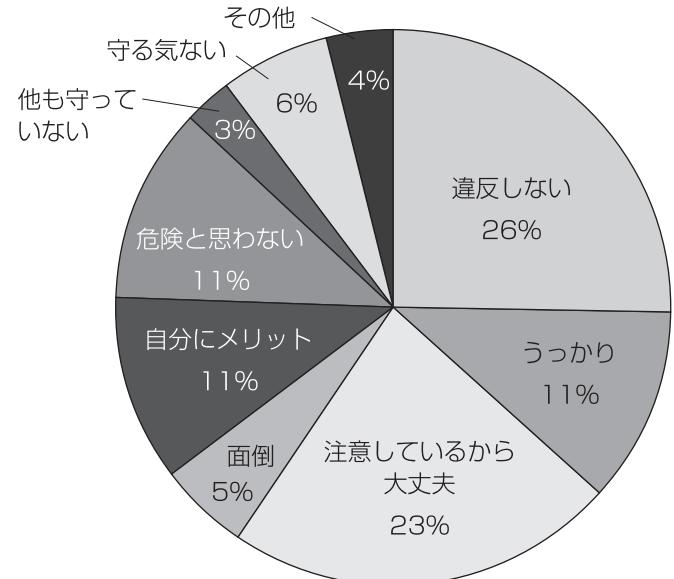
県内高校生の交通事故状態別死傷者数の推移  
(県警調べ・保健体育課作成)



一方、全体的に減少傾向にある中、唯一、歩行中の事故だけが増加しています。防止に向けての具体的な対策が必要です。

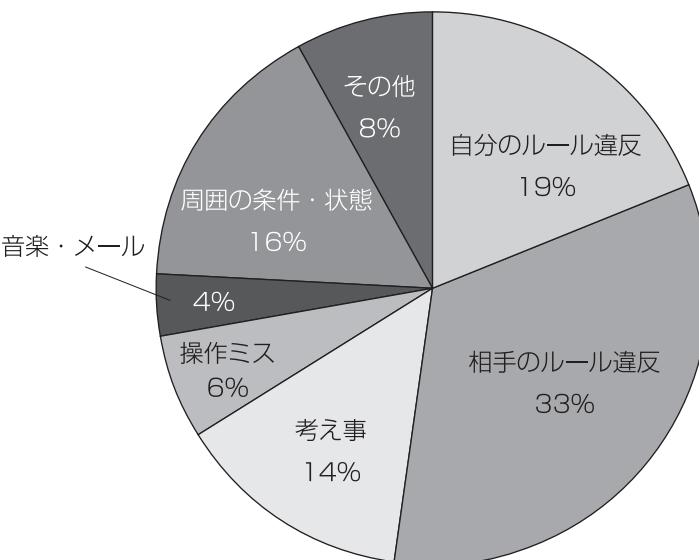
さて、近年の事故発生件数の減少などは、各校の長年にわたる取組みの成果であることは疑いありません。しかし、私たちの今後の取組み次第ではけつして予断を許しません。減少傾向にある今だからこそ、事故防止に向けて、さらに実効的な取組みをすめていくことが私たちに求められています。

# わかっているけれど……～ルールを守らない高校生～



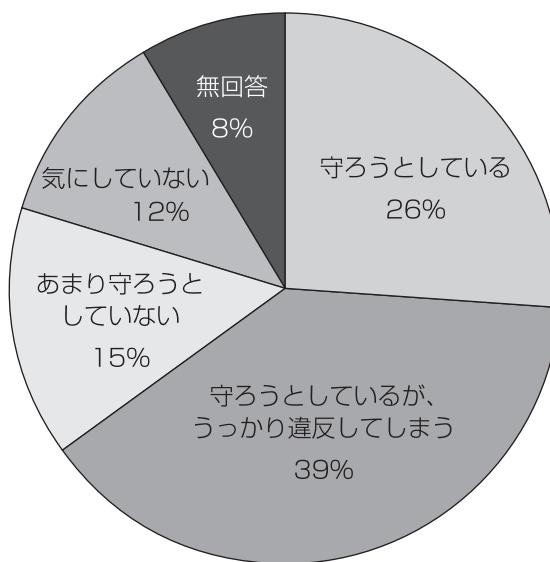
「違反しない」「うっかり」を除いた6割を超える生徒が独りよがりな判断で、交通ルールを守っていません。

信号や一時停止の無視、二人乗り、傘さし、携帯電話、ヘッドフォンといったルール違反をしてしまう理由は何か



運転中の音楽・メールもルール違反と考えると、2人に1人が自分自身のルール違反や不注意によって事故を引き起こしています。

## 自転車事故を起こした人の主な原因は何か



## 自転車に関する交通ルールを意識して守ろうとしているか

私たちが日々、生徒に対して行っている交通安全教育とは、交通ルールを守ることの大切さや守らない場合の罰則を一方的に伝えているだけではないでしょうか。しかし、調査結果が示すように、ルールをわかつているにもかかわらずあえて違反をする生徒が少なくない中、そのような彼、彼らにいくらルールの大切さを声高に叫んでも、「わかっているから大丈夫」の一言で片付けられてしまうでしょ。しかし、多くの生徒がルール違反で事故を起こしていく現状を鑑みると、やはりル

注別の統計では、「守ろうとしていない」「気にしない」は男子に多く、「うっかり違反」は女子に多いという結果が出ています。  
「守ろうとしていない」「気にしない」生徒は4人に一人で、「守ろうとしている」生徒とほぼ同数です。一方、守る意識はあるものの「うっかり違反してしまう」生徒は3人に一人です。

私たちが日々、生徒に対して言つまでもありません。問題はそれをどのように生徒に訴えかけるかということです。生徒にそのルールの必要性、意味を考えさせる機会を設けることが必要でしょう。さらに、ルールを無視した独りよがりな自己判断は、他者の交通行動とのずれを生み、やがては事故につながるところにともに気づかせるべきでしょう。  
このことは、ホームルームなどで日常的に話題にするなど、私たちが折にふれて取り上げることが何より重要になつてきます。

県高等学校交通安全教育研究会では、昨年一月から二月の間に、県内県立高校10校の三年生（1・八四〇名）を対象に、自転車の利用状況および事故状況についての調査を行いました。ここでは、それらの結果を通して見てきた高校生の様子や行動傾向を考察することによって、事故の原因をさぐることも、事故防止に向けて私たちができることがありますと考えてみたいと思います。